

「高騰した経費を販売単価へ反映」卸売業者にアプローチ JAしみずバラ部会



JAしみず バラ部会

部員数 17名 (R5.4月現在)
 総生産面積 約4ha
 生産品目 「スタンダードバラ」、「スプレーバラ」等

取組内容

バラ生産の経費高騰分を販売価格に反映させるため、
 農家の所得維持に必要な適正取引価格
 をデータにより算出。

事務所所在地 静岡県静岡市清水区庵原町575-1
 電話番号 054-367-6116
 HPアドレス <https://www.ja-shimizu.org>

算出データを基に、具体的数値を提示し、取引先の花き卸に働きかけ。

《きっかけ》

令和2年から、新型コロナウイルスの感染が拡大。人が集まる機会が激減し生花需要が大幅に減少したため、販売価格が低迷。

令和5年、コロナ感染症は5類へ移行。行動制限も緩和したことで生花の販売価格もコロナ禍以前の水準に回復。

しかし

この間、ロシアによるウクライナ侵攻や円安の進行等の影響から、燃料・肥料・農薬等の資材価格が高騰し、バラ生産農家の経営を圧迫。産地継続に危機感を抱く。

《所得維持のために》

部会優良農家の経費高騰前と高騰後の農業収支を農家から聞き取り、農業所得額を比較することで、単価への加算額を試算。

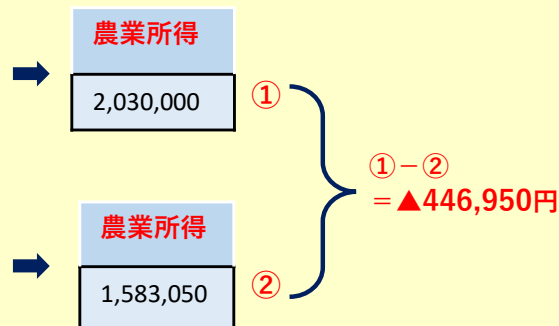
モデル：周年栽培（養液栽培）栽培面積10a、所得200万円、生産量85,000本*

★ 理想とする所得（R4年実績から算出）

売上高	経営費	所得
9,100,000	7,070,000	2,030,000

★ 経費高騰後の所得（R5年5月時点）

売上高	経営費	所得
9,100,000	7,516,950	1,583,050



446,950円/生産量85,000本* = 1本あたり加算希望額：5.2円

《卸売業者へ働きかけ》

令和5年度の目標平均単価：112.3円

JAしみずから花き卸への要請

部会役員、JA職員が取引先の関東圏の花き卸を訪問。

算出データを基に、具体的な数値を提示して、販売単価に反映するよう要請。

JAしみず

花き卸

花き卸からJAしみずへの提案

需要期：出荷情報の早期提供の代わりに、優先的に注文品を発注することを提案。
 非需要期：単価の低下を防ぐため、定期相対取引の拡大を提案。

《効果検証例》

●需要期（母の日 5/8販売分）：注文品の増加により
 販売数量：20,780本

JAしみず平均単価：160円/本

→160円×20,780本=販売額：3,324,800円

試算 { 県内5農協平均単価：129円/本

→129円×20,780本=販売額：2,680,620円

バラ販売金額
 644,000円の差

●非需要期（母の日明け 5-6月販売分）：定期相対取引の実施により
 バラ単価 2.26円増
 相対取引については、わずかではあったが効果が見られた。